椰子の樹

長野県ニューギニア会 会報

第28号

令和3年1月1日発行
長野県小県郡青木村村松
発行人　本田昌彦
印　刷　杏花印刷

この台上より一望すると、左方向よりオウム岬、ウエワク半島、阿部岬、松の岬まで展望できる。眼下の草地は陸軍中飛行場跡、中腹には野戦高射砲第61大隊の陣地跡が残り、今も5門の残骸がみられる。

ウエワク・洋展台

東部ニューギニア侵攻の拠点となったウエワクで唯一のビューポイント。昭和18年1月第20師団、後に第4航空軍（洋部隊）司令部が置かれたことから命名された。

この高台からはムッシュ島カイルリ島はじめ市街地が一望できる。第18軍隷下の約4万人の将兵もここから上陸し終戦まで守備を全うした。

新年のごあいさつ

長野県ニューギニア会　会長　本田 昌彦

明けましておめでとうございます。

コロナ禍が未だ収束しない中ですが、皆様お健やかに新年をお迎えのことと拝察いたします。昨年は新型コロナウイルスの世界的大流行に見舞われ、その拡大防止に明け暮れた一年でした。昨年度の当会行事も二月の総会は無事行われましたが、七月の慰霊大祭はコロナの影響を受けて会員皆様の参列を見合わせ役員のみでの式典を執り行いました。又ニューギニアへの慰霊巡拝は諸般の事情により実施できませんでした。

戦後75年目の「終戦の日」8月15日に「全国戦没者追悼式」が行われました。

天皇陛下は前年に続き過去への「深い反省」に触れられ、コロナ禍にも言及され「この困難な状況を乗り越え、今後とも、人々の幸せと平和を希求し続けていくことを心から願う」と述べられました。

終戦から75年が過ぎ、戦争を体験した世代が一段と減り、戦後生まれが人口の8割を超える日本では太平洋戦争が人々にとって「同時代の痛みを伴う出来事」（記憶）から「歴史上の出来事」（歴史）へと移りつつあると思われます。310万人を超える死者を出した先の大戦になぜ突き進んだのか、私達はこうした歴史にきちんと向き合い、学ぶ必要があります。「二度とこんな戦争を起こしてはいけない」という思いをしっかり受け継ぎ、同じ過ちを繰り返さないために歴史に学ぶ大切さを再認識したいと思います。

新年度の事業は例年どおり進めていく予定です。

今年はコロナ禍が終息し、明るく穏やかな年になりますよう祈念すると共に、皆様方のご健勝を心よりお祈りいたし新年のご挨拶といたします。

▽第53回通常総会　開催のお知らせ

長野県ニューギニア会の規定により、第53回通常総会を左記の通り開催いたします。

記

・**日時**　令和3年2月11日（祝）午後2時から
・**会場**　浅間温泉みやま荘　松本市浅間温泉3-28-6
TEL　0263-46-1574

会員の皆様のご参加をお待ちしております。

（マスクをご用意ください）

スケッチ画（ウエワク慰霊墓苑）　稲垣 一良

戦没者遺児慰霊渡航中断

コロナ感染拡大で遺族会主催の事業できず

高齢者多く早期再開を期待

日本遺族会が、厚生労働省から補助金を受け実施している「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」が、全て中断している。

新型コロナ感染症の影響で渡航ができないためで、今年度は戦後75年の節目に当たるが、全世界に広がる感染症が慰霊事業に暗い影を落としている。

日本遺族会によると、今年度の慰霊友好親善事業は、8月下旬から今年3月末にニューギニアなど計19方面の派遣が予定され、参加者9百人を募集していた。

しかし、渡航先の国々は新型コロナの感染拡大を理由に、外国人の入国が認められなかったり、入国後14日間の隔離措置が取られたりしている。参加する遺児の平均年齢も80歳前後で、感染発病で重症化するリスクも高いことから、同会は実施の可否を慎重に検討した。

その結果、本年度8月～9月中旬にロシアや西部ニューギニア方面を取りやめ、12月末までのフィリピン、東部ニューギニアも中止となった。

マダン・ウエワクの小学校を訪問する慰霊友好訪問団（令和2年2月14日）

1月～3月の7事業も中止となる可能性が高い。

県遺族会の轟事務局長は「県内からこの慰霊事業に参加される遺児の皆さんは、毎年15名前後ですが、本年度は申し込みがない状態です。高齢の方が多いだけに、現地慰霊巡拝は時間との闘いとなりますが、早い再開を期待したいです」と話している。

PNG ナザブ空港改修着工 日本の支援で整備へ

モロベ州ラエ市近郊のナザブ空港の全面改修工事が、日本政府の支援で進められている。

この整備事業は、既存の空港を国際空港とするために、滑走路などを拡張するとともに、空港ビルを新設する。政府は約270億円の円借款を支援した。来年度末に完成すれば、ポートモレスビーのジャクソン空港に次ぐPNG第二の国際空港となる。

昨年7月に行われた起工式には、マラペ首相、中原邦之大使はじめ、同国関係官僚など約百人が出席した。マラペ首相はスピーチで、日本との友好の象徴として空港名を「ナザブ・トモダチ空港」としたいと述べた。

ラエ市は同国第2の都市となっているが、先の大戦では昭和17年3月、海軍陸戦隊が上陸し、飛行場を建設した。その後51師団が死の転進路と言われたサラワケット山を越え2千余名の将兵が命を落としマダンに退却している。

慰霊友好親善事業　日本遺族会が主催する慰霊・交流事業。参加対象は、先の大戦で父親が戦死した遺族で、これまでに延べ1万6千人が参加した。国からの補助があり参加費は10万円。かつての戦地で慰霊行事を実施するほか、現地の学校や病院を訪問、文房具や車椅子を寄贈して親善交流を行っている。参加申し込み先は長野県遺族会事務局で、複数回応募もできる。参加者の高齢化に配慮して看護師が同行する。

佐久で県戦没者追悼式 コロナ禍で規模縮小

令和2年度県戦没者追悼式は昨年10月31日佐久市の県立武道館で開いた。県内各地の戦没者遺族の代表ら約220人が参列。式辞で阿部守一知事は「県民の大半が戦争を知らない世代となっていく中、戦争の教訓を風化させないことが私たちに課せられた責務」と述べた。

県遺族会の横田久会長は追悼の辞で「御英霊の尊い犠牲の上に今日があり、平和の尊さとともに、次の世代に語り継いでいかないといけない」と訴えた。

県遺族会は式の後「戦没者遺族代表者会議」を開催。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年開く「県戦没者遺族大会」に代えて規模を縮小し、同会議とした。

また、「総理、閣僚等の靖国神社、知事市町村長の長野県護國神社の参拝定着を図ること」など代表者会議決議を採択した。

県武道館で開かれた戦没者追悼式

海外での遺骨収集事業
本年度事業は中止へ

新型コロナ感染拡大の影響により、本年度の海外遺骨収集は、ほぼすべての地域において派遣作業ができない状態が続いている。日本戦没者遺骨収集推進協議会は、当面の間海外における遺骨収集事業を中止することを決めた。

同推進協は、今後の派遣再開の基準として、①派遣相手国の入国・行動制限が解除されること②日本帰国後の行動制限が解除されること③外務省が発出している渡航制限レベルが1以下となることの三条件を満たした後に、厚生労働省の判断によって、派遣手続きを開始するとしている。

同協議会は本年度、東部・西部ニューギニア、ビスマルクソロモン諸島など18地域での遺骨収集事業を予定していた。この事業は、日本遺族会が同協会からの依頼を受けて、参加協力するという形をとっており遺児のほか孫、ひ孫、甥、姪等が参加できる。参加費用は全額国が負担する。長野市にある県遺族会事務局でも、参加希望者の登録を常時受けつけている。

ニューギニア方面の収容ご遺骨
これまで5万1千余柱帰還

先の大戦における戦没者の、遺骨収集は昭和27年から始まり、これまでに約34万柱のご遺骨が収容された。これに復員、引き揚げで戦友などの持ち帰り遺骨を含めると約128万柱が帰還している。

ところで、ニューギニア方面からは政府派遣収容遺骨数は1万8千9百36柱（令和2年9月現在）。これに引揚げの際に戦友等により持ち帰られた遺骨を含めると5万1千4百20柱となる。

平成28年度に遺骨収集の強化を求めた遺族の声を法制化した「戦没者遺骨収集推進法」成立により、事業が強化された。

コロナ感染拡大にともない、昨年2月に予定されていた千鳥ヶ淵国立墓苑での東部ニューギニアからの帰還ご遺骨引き渡し式も中止された。

東セピック州での焼骨式
平成29年2月・ウエワクホテル敷地内

遺骨鑑定センター立上げ
遺骨の科学的鑑定に対応

ロシア等における遺骨の取り違え問題を踏まえ、厚労省は「戦没者遺骨鑑定センター」を立ち上げた。

センター長として、信州大学医学部教授の浅村秀樹氏を任命した。センターの業務は①戦没者遺骨の科学的鑑定②遺骨収容に関する技術的事項③諸外国の機関との共同鑑定とされ、DNA鑑定や形質鑑定の結果、日本人の遺骨であるか否かを判断するための判定会議、遺骨を遺族に返還するための身元特定DNA会議を設ける。

コイキン観音地主から
土地使用料支払い要求

ウエワクのコイキン・マリクの丘にある、観音像土地所有者を名のるジョセフ・ファッフェ氏からこのほど、40年分の土地使用料の支払いを求める書簡が、現地の日本大使館を通じて本田会長宛に届いた。

この観音様は昭和55年8月大久保豊初代会長が、現地のパカラ酋長の協力で建立された。以来、慰霊巡拝の際、管理のお礼として手みやげに現地通貨を添えて、敷地内に住む同族関係者に手渡してきた経過がある。

現地大使館に対しては、メール便で本会の見解を説明すると共に、今後の善処方を依頼した。昨年末には、外務省からもその対応などについて連絡が寄せられた。

特別寄稿

遺骨収集事業今後の課題
東部ニューギニア戦友遺族会
事務局長　森本浩吉

厚労省は、戦没者遺骨の取り違え問題などを踏まえ、遺骨収集事業をゼロベースで見直すこととなり、昨年から「事業の抜本的見直し」に着手した。

有識者会議や遺族の心情を大幅に取り入れる方向で、まとめられており、遺骨の取り違え防止策に万全を図るなど、遺骨収集手順は大きく変更された。

現地で日本人の遺骨と認めた場合、検体のみを採取し、部位骨は現地に保管。検体は日本でDNA鑑定を実施、日本人の遺骨と判定されれば、現地の遺骨と併せて洗骨・焼骨を行い、やっと祖国への送還が叶うこととなる。

私はこれまで40数回にわたり現地を訪問している。東部ニューギニアの広大な戦場は、地形の変貌や荒廃により遺骨収集は大変難しい状況にある。保管場所等々課題も多い。

「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」は、収集に関する施策の集中的実施期間を、令和6年度と定めており、戦没者遺族にとって残された時間は短い。加えて世界的なコロナ感染症の蔓延により、海外における事業実施の目処さえ立たない状況にある。

厚労省はこの抜本的見直しで「一柱でも多くの御遺骨を、一日も早く故郷に、そしてご遺族の元にお返しすることができるよう、遺骨収集事業に取り組む」と結んでいるが、ご遺骨の祖国への帰還事業の更なる加速を遺族は切望している。（横浜市在住）

76年前に終わったニューギニア戦線はその戦域、戦闘状況から、これまでに収骨された遺骨は旧日本軍将兵のものと固く信じています。

科学的（DNA）鑑定を否定しないが、鑑定機関、検査体制、結果判明までの日数、

第52回ニューギニア方面戦没者慰霊大祭厳粛に斎行

令和2年度ニューギニア方面戦没者慰霊大祭は、新型コロナウイルス感染症の流行が心配されましたが、酷暑の7月26日松本市の長野県護國神社において自粛開催、遺族を始め関係来賓の参列をご遠慮いただく中で、厳粛に滞りなく斎行されました。

神社本殿には、横田久県遺族会長、大久保典昭顧問はじめニューギニア会役員ら10名が参列しました。式典は午後1時、恒例の大太鼓の合図で始まり、参列者による黙とう、国歌の斉唱、修祓と続き奥谷宮司が祝詞を奏上、引き続き慰霊の玉串を神前に奉り戦没者の御霊に慰霊の誠を捧げて式典を終了しました。

式典に先立ち慰霊碑敷地内の清掃を行いました。

自粛開催となった慰霊大祭ですが、開催に先立ち参加者全員で慰霊碑周辺を清掃し、祭壇に拝礼して戦没者の御霊に慰霊の誠を捧げました。

この碑は昭和49年に建立されましたが、地震災害が心配されたため護國神社との協議で、平成26年4月に耐震性に優れた石碑として全面改修しました。

作業は敷地内の下草刈り、樹木の手入れ等を行い、日パ両国の国旗を掲げ、石碑と芳名盤に生花を飾りつけ、祭壇に拝礼をいたしました。

役員のみで厳粛に斎行された慰霊大祭

参加者全員で行った碑の敷地内の清掃

稲垣　一良さん死去　当会顧問・元会長

長野県ニューギニア会顧問（第6代会長）・稲垣一良さんが、令和2年8月16日ご逝去されました（享年89歳）。茲に謹んでお悔やみ申しあげます。

稲垣さんは、平成19年2月から23年2月までの4年間、第6代会長として当会の発展に尽力されました。その間、東部ニューギニア方面慰霊巡拝団の派遣推進、またニューギニア会の広報活動を強化しホームページの開設、会報「椰子の樹」の発刊など当会の活動に大きな足跡を残されました。

事務局から

平素から長野県ニューギニア会の円滑な活動にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。お陰さまで、当会も多くの会員の皆さまのお力添えで、52年の長い歴史を積み重ねてまいりました。

しかしながら近年では、会員の高齢化と減少に伴い、必要な予算の確保が難しくなってきております。ニューギニア会活動の目的達成のために、会員の皆さまには、会費の納入などに一層のご協力をお願いいたします。

会員の名義変更や、転居などの移動がありましたら、事務局までご連絡ください。

コラム　苦髪楽爪

広辞苑を引くと『苦労の多いときは髪の毛がよく伸び、楽をしているときは爪がよく伸びる』とあります。その他諸説いろいろあるようです。三年ほど前のこと、私は突然の病で長期の入院生活を送りました。抗ガン剤の治療で朝起きると枕に髪がいっぱい、伸びるどころではありません。爪の方は伸びて薄くなり折れる心配もありそうです。苦痛があって髪の毛が無くなり爪が伸びる…どうも苦髪楽爪の逆のような現象です。苦髪楽爪という言葉については七十年あまり昔の中学生の頃、母から説明を受けた覚えがありました。『苦労して髪の毛を綺麗にする間もなく働けば髪も伸びたままになるだろうし、爪もすり減って伸びないのだよ。そういう人もいるのだよ』と教えられたことを思い出していました。私はこのほうが説得力があって以来この解釈を自分の辞書にしていました。

この現象を聞いた悪友たちは「髪は長さでなくてあるかどうかだよ。爪はニキビもないからもういらないんじゃないの…」と笑っています。（竹村）

椰子の実

★大きな声はご遠慮して新年のご挨拶を申し上げます。会報編集陣も3密を避けて28号を纏めました。★慰霊巡拝、遺骨収集等現地訪問の行事だけでなく戦没者追悼式の規模も縮小され遺族の心が集まる機会が少なくなりました。役員一同知恵を出しあって会の維持発展に務めていきます。★新型コロナ発生の地と言われる武漢、編集子は60数年の昔に訪問、香港から橋を渡って中国に入ると蝿一匹見なくなる新中国があったのですが…。★稲垣元会長のご逝去、会報を作り始めた頃、ご自宅を拝借して糊でベタベタになりながら一日がかりの発送作業を思い出します。★ウエワク郊外の高射砲陣地跡、バスの中に花を投げ込んで見送ってくれた子供たちとの交流もありました。★いまやコロナのはやり言葉のクラスターですが、かつてB29から降り注がれたM69クラスター焼夷弾が先輩です。どちらも憎い言葉です。★干支は丑年。アマビエ様にも「命と経済」という欲張ったお願いをして、安全なワクチンの投与も待ちながら穏やかな日々が戻るまで頑張っていくことにしましょう。（T）